

浅海増殖試験 キジハタ生態調査

石田健次

キジハタは本州中部以南から中国沿岸にかけて分布するマハタ属の魚で、岩礁地帯や転石地帯に生息し、美味な上に活魚として流通にも向くために高級魚として珍重されている。本種は漁獲量が少ないこともあって農林統計資料に記載されていないが、本県で数t程度と推測され、おもに刺網、釣りなどで漁獲されている。最近、西日本各地で本種の大規模な種苗生産が盛んに行われているが、ウイルス性神経壊死症が多発し、不安定な生産となっている。

本年度から、キジハタの種苗生産技術および放流技術開発の基礎資料とするために、生活史の解明および資源変動等の調査を実施する。

方 法

用いた材料は、隠岐海峡を漁場とする平田市佐香漁協所属の延べ縄漁と恵曇漁協所属の刺網、釣りなどで漁獲されたキジハタである。

漁獲量は1989年から1994年の販売仕切書などを調べた。また、佐香漁協の延べ縄漁は漁業者から漁場を聞き取りした。

結果と考察

1989年から1994年の年間漁獲量は両地区ともに0.3～1.5トンで近年は0.4トン前後と低迷している(図1)。月別では、佐香地区の延べ縄漁は4～7月と10～11月(図2)、恵曇地区の刺網、釣りなどは6～10月に漁獲の盛期があった(図3)。また、佐香地区の延べ縄漁場は水深140mまでの隠岐島から島根半島の海域で、キジハタの漁場はおもに水深100m以浅で海底の勾配が比較的急峻な場所で操業が行われ(図4)、全長250mm以上の個体が漁獲されていた。両地区のキジハタの漁期は、佐香が春季と秋季、恵曇が夏季に漁獲の盛期がみられた。このことは時化が多い冬季を除き、キジハタの深淺移動で漁場から遠のくか、または摂餌行動が鈍化して、漁法の違いによる漁獲の盛期が異なることを示唆しているものと思われる。

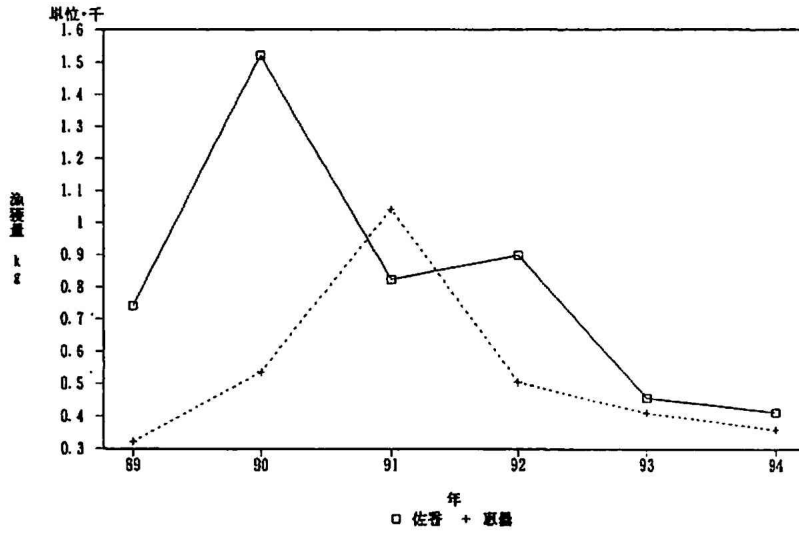


図1 キジハタの漁獲量

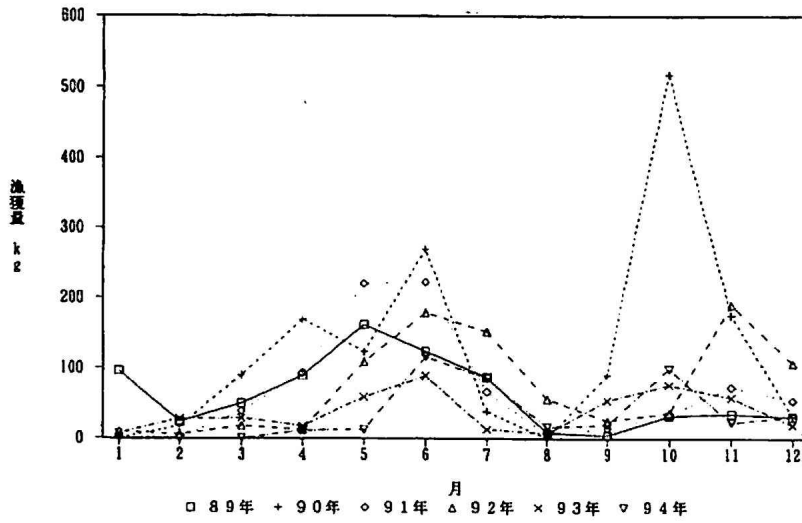


図2 佐香漁協のキジハタの漁獲量

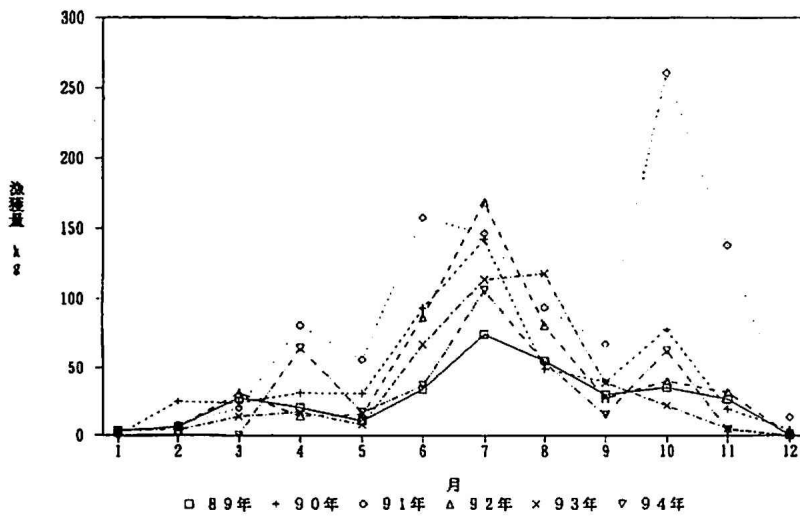


図3 恵曇漁協のキジハタの漁獲量

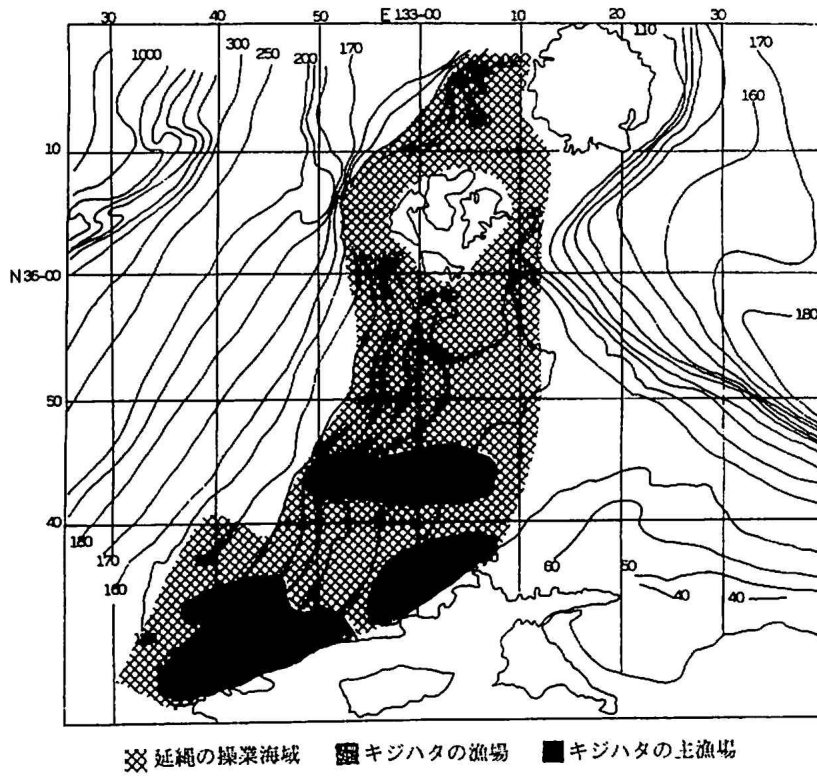


図4 キジハタの漁場